1	地域経済と環境計画		選択 2単位 前期
	Regional economy and Environmental planning		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	5 7 9 11 16
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

大学院
小祝　慶紀

授業の達成目標

経済学的な観点に立脚しつつ、都市・地域・環境といった視点から環境保全のための都市・地域の政策手段やその課題について考察する。加えて都市内交通・都市間交通などの様々な問題との関係について考察し、地域の抱える「環境問題」や「環境政策」に対する考え方を養うことを目的とします。併せて、地球温暖化問題などグローバルな環境問題についての理解を深めることを目標とします。

授業の概要

都市・地域・環境といった視点から環境保全のための都市・地域の政策手段やその課題について、まず、地域の経済、地域の環境計画といった点から解説します。それらに加えて、経済学の観点から、都市内交通・都市間交通などの様々な問題との関係について受講生と伴に考察します。さらに、地球温暖化問題や廃棄物問題など具体的な環境問題について考えていきます。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業の事務部門において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜資料等を配布します。【参考書】黒川哲志・奥田進一［編］『環境法へのアプローチ　第 2 版』　倉坂秀史『環境政策論　第 3 版』ほか

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑 20%、課題レポートと口頭発表 50%、最終レポート 30%で総合的に評価する。課題レポートなどは次回の講義の冒頭でフィードバックする。

課題や試験等に対するフィードバック方法

授業で前回の課題などについて解説を行う。

備考

デザイン工学専攻

1	地域経済と環境計画	0	選択 2単位 前期
	Regional economy and Environmental planning		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス「地域における経済と環境計画・環境政策」とは何か	受講生が興味のある環境問題についての予習。	2
		予習での内容と授業の内容とを比較する。	2
第2回	経済成長の基本的考え方	経済と経済成長の意義についての予習。	2
		経済成長とは何かについて確認する	2
第3回	地域内経済成長（GRP の考え方）	地域内経済成長の基礎についての予習。	2
		GRPの構成要件を確認する。	2
第4回	地域経済と環境問題の変遷（1）明治期から戦前	明治期の経済状況と鉱害問題についての予習。	2
		戦前の地域の環境問題とは何かについて確認する。	2
第5回	地域経済と環境問題の変遷（2）戦後から現代	戦後の経済成長（高度経済成長とは何だったのか）についての予習。	2
		戦後の地域の環境問題とは何かについて確認する。	2
第6回	都市計画・国土開発の変遷	1970 年代からの国土開発についての予習。	2
		都市計画・国土開発の変遷について確認する。	2
第7回	経済と環境問題の関わりを知る。	持続可能な社会についての予習。	2
		経済と環境問題の関わりについて地域に即した問題を確認する。	2
第8回	地域環境に係る制度設計（1）大気汚染・水質汚濁	地域環境問題として大気汚染・水質汚濁にてついての予習。	2
		大気汚染・水質汚濁のもたらした弊害を確認する。	2
第9回	地域環境に係る制度設計（2）土壌汚染・悪臭・騒音	地域環境問題として土壌汚染・悪臭・騒音についての予習。	2
		土壌汚染・悪臭・騒音といった都市型公害について、その弊害を確認する。	2
第10回	地域環境に係る制度設計（3）原子力対策	原子力問題についての予習。	2
		東日本大震災での原発事故について考察する。	2
第11回	地域環境に係る制度設計（4）自然保全と生物多様性	地域環境問題として里山などの自然保全、外来種などと生物多様性についての予習。	2
		地域環境問題として里山などの自然保全、外来種などと生物多様性を確認する。	2
第12回	地域環境に係る制度設計（5）廃棄物・循環資源	地球環境問題とは何かについての予習。	2
		循環型社会を形成すつための制度を確認する。	2
第13回	地球環境問題　温暖化・海洋汚染	地球上の環境問題、特に温暖化と海洋汚染の原因を予習する。	2
		温暖化や海洋汚染への対応を確認する。	2
第14回	まとめと試験	これまで学習した内容に関する重要課題の予習。	2
		これまで学習した内容に関する重要課題の確認。	2

2	デザイン文化論		選択 2単位 後期
	Theory of Design Culture		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	12
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
梅田　弘樹

授業の達成目標

現代社会における（特に文化としての）デザインの意義に対する現実的かつ独創的思想を築くための知識を身につける。またそれを応用するために、現実の中から問題を見つけ出し、解決するための実践力を身につける。

授業の概要

1. モダニズムデザインの意義とその今日のデザイン思想への影響を主に文化的観点から再確認する。
2. 最新デザイン事例の文献調査と実物の取材、その報告とディスカッションを通して、それらのデザインに込められた時代的／社会的／文化的メッセージを読み解く。
3. 近未来の社会テーマ（例：AI、ジェンダー、エネルギー、国際情勢、etc.）に対し、文化としてのデザインがどう対処できるかを考察する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、プロダクトデザイナーとして様々な製品のデザイン業務に従事した実績と経験にもとづき、デザインの意義やその根本思想を考え、それを実際のデザイン行為へ応用するためのヒントを提示する。

メディア授業の実施形態

教科書等

参考書等

上記のほか、授業中に適宜紹介する。
カラー版図説デザインの歴史 暮沢剛巳ほか 学芸出版社 2022
デザインのデザイン 原研哉 岩波書店 2003
柳宗理エッセイ 柳宗理 平凡社 2011
ジャスパー・モリソンのデザイン ジャスパー・モリソン アートデザインパブリッシング 2006
デザインの原形　新装版 日本デザインコミッティー 六耀社 2004

成績評価方法・基準

授業中のディスカッション、課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題レポートは、授業の中でフィードバックする。

備考

デザイン工学専攻

2	デザイン文化論	0	選択 2単位 後期
	Theory of Design Culture		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	時事情報に気を配り、社会とデザインの関連について考える習慣をつける。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第2回	モダニズムデザイン１－ デザイン史概観～コルビュジェ登場	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第3回	モダニズムデザイン２－ Dieter Rams「良いデザインのための10 ヶ条」	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第4回	モダニズムデザイン３－ 柳宗理「アノニマスデザイン」	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第5回	モダニズムデザイン４－ 高度成長期のデザイン	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第6回	モダニズムデザイン５－ 北欧デザインの価値	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第7回	「ポストモダン」の解釈	関連するキーワードについて調べておく。	2
		調査 ・ 考察結果をレポートにまとめる。	2
第8回	デザイン見本市・デザインメディア・グッドデザイン賞	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第9回	現代のデザイン思想１－原研哉「モダニズムのその先へ」	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第10回	現代のデザイン思想２－Jasper Morrison「ユーティリズムとユースレスニズム」	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第11回	現代のデザイン思想３－深澤直人・Jasper Morrison「スーパーノーマル」	関連するキーワードについて調べておく。配付資料などを確認して復習する。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第12回	現代のデザイン思想４－nendoの活動	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第13回	近未来の予測－ＳＦプロトタイピング	関連するキーワードについて調べておく。	2
		配付資料などを確認して復習する。	2
第14回	まとめと試験	これまでの授業の配付資料などを確認しておく。	2
		試験問題のわからなかったところを調べる。	2

3	情報メディア論		選択 2単位 前期
	Theory of Information and Media		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	9 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12 つくる責任 つかう責任
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
堀江　政広

授業の達成目標

①メディア論の基礎とメディアの技術を理解し、②現代のメディア社会を構造的にとらえ、③メディアのデジタル・メディアのデザインをする上で必要となる実践的な知識を身につけること。

授業の概要

情報デザインをする上で、メディアの特性を理解することが重要である。メディアの歴史と理論を踏まえ、メディアの技術を理解し、次に21世紀のデジタル・メディアと社会をとらえる。そしてデジタル・メディアの可能性と課題および、そのデザイン課題についてディスカッションする。

実務経験を活かした教育について

担当教員は民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜、関連する書籍、資料、研究論文および最新の学術誌の紹介、もしくはコピーを配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑（40%）および最終レポート（60%）を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

3	情報メディア論	0	選択 2単位 前期
	Theory of Information and Media		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	情報とメディア	予習：メディアと情報の定義について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第2回	メディア論	予習：マーシャル・マクルーハンについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第3回	19 世紀のメディア（電信、電話、無線、ラジオ）	予習：電信、電話、無線、ラジオについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第4回	20 世紀のメディア（ラジオ、テレビ）	予習：ラジオ、テレビについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第5回	20 世紀のマスメディア（新聞、放送）	予習：新聞、放送について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第6回	21 世紀のデジタル・メディア（インターネット、ケータイ）	予習：インターネット、ケータイについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第7回	21 世紀の市民メディア	予習：市民メディアについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第8回	モバイル・メディアと身体	予習：モバイル・メディアについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第9回	メディア・リテラシー	予習：メディア・リテラシーについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第10回	メディアと情報デザイン	予習：情報デザインについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第11回	メディア・アート	予習：メディアアートについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第12回	グローバル・メディア（アニメ、ゲーム）	予習：アニメ、ゲームについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第13回	ローカル・メディア（エスニック・メディア）	予習：エスニック・メディアについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第14回	実践ワークショップ	予習：メディア研究での実践ワークショップについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2

4	ソフトウェア開発手法特論		選択 2単位 後期
	Agile software development		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全
堀江　政広

授業の達成目標

①ソフトウェア開発において、デザイナーがソフトウェアエンジニアと協調するための知識を身につける。そして②ユーザーエクスペリエンスデザイナーとしてスクラムマスターの役割を果たすための手法を理解する。③スクラムマスターとして実践できるようにする。

授業の概要

ソフトウェア開発におけるプロジェクト開発手法について、アジャイル開発手法の一つであるスクラムを中心に学ぶ。製品のユーザーエクスペリエンスに一貫性を持たせるための技術について、関連する文献およびケーススタディを通して習得する。

実務経験を活かした教育について

担当教員は民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜、関連する書籍、資料、研究論文および最新の学術誌の紹介、もしくはコピーを配付する。

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑（40%）および最終レポート（60%）を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

4	ソフトウェア開発手法特論	0	選択 2単位 後期
	Agile software development		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ソフトウェア開発の課題	予習：ソフトウェア開発の課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第2回	ソフトウェアの開発プロセス1（ウォーターフォール型）	予習：ウォーターフォール型開発について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第3回	ソフトウェアの開発プロセス2（アジャイル型）	予習：アジャイル型開発について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第4回	エクストリームプログラミング（XP）	予習：エクストリームプログラミング（XP）について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第5回	スクラム開発	予習：スクラムについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第6回	アジャイルソフトウェア開発向けUML（ユースケース図）	予習：UMLのユースケース図について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第7回	アジャイルソフトウェア開発向けUML（ ユーザーストーリー）	予習：UMLのユーザーストーリーについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第8回	アジャイルソフトウェア開発向けUML（アクティビティ図）	予習：UMLのアクティビティ図について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第9回	アジャイルソフトウェア開発におけるユーザーエクスペリエンスデザイナー	予習：ソフトウェア開発のユーザーエクスペリエンスデザイナーについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第10回	デザイナーとソフトウェアエンジニアの協調と、プロダクトオーナー	予習：プロダクトオーナーについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第11回	プロトタイピング 1（ペーパープロトタイピング）	予習：ペーパープロトタイピングについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第12回	プロトタイピング2（プロトタイピングツール）	予習：プロトタイピングツールについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第13回	プロトタイピング3（ソフトウエアプロトタイピング）	予習：ソフトウェアプロトタイピングについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第14回	プロタイプソフトウェアを用いたワークショップ	予習：プロトタイプソフトウェアを用いたワークショップについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2

5	経営・会計学特論		選択 2単位 後期
	Advanced Study of Management and Accounting		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
川島　和浩

授業の達成目標

デザイナーとして独立して起業する場合や企業に就職して事業部門を管理する場合において、経営理論を学ぶこととそれを実践するための組織をデザインすることは非常に重要である。経営管理に資する会計情報を提供する管理会計の基礎を学び、将来の経営管理者として、組織の業績評価や意思決定を適切に行う管理能力を養う。

授業の概要

わが国における中小企業は、グローバル化や少子高齢社会の進展に伴って、従来のビジネスモデルの修正を迫られている。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大という外部環境の急激な変化のもとで、どのようにして持続可能な成長を遂げていくかという経営課題に直面している。現在の厳しい経営環境に対応し、経営を維持・発展させるためには、従来の事業領域や経営活動を見直し、本業を活かした経営戦略の構築が必要である。そのためには、組織における経営学・会計学のビジネスセンスを身につけることが大切である。経営者が組織デザインである経営指針を確立し、実行するための経営管理手法、そして管理会計手法を講義する。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜、関連する資料を配付する。

参考書等

上埜進編著『工業簿記・原価計算の基礎―理論と計算―（第 4 版）』税務経理協会、2017 年。
宇田川荘二『中小企業の財務分析―経営・原価指標の分析・活用―（第 5 版）』同友館、2020 年。

成績評価方法・基準

授業への取組み態度（20%）、課題レポート（30%）、口頭発表（20%）、最終レポート（30%）で総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題レポートなどは WebClassおよび次回の授業のなかでフィードバックする。

備考

デザイン工学専攻

5	経営・会計学特論	0	選択 2単位 後期
	Advanced Study of Management and Accounting		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：組織デザイン（経営指針）の必要性について	組織デザインを形成する経営指針について調べる。	2
		経営指針の作成がなぜ必要かを調べる。	2
第2回	経営理念の構築について	経営理念とは何かを調べる。	2
		企業が公表している経営理念の特徴を調べる。	2
第3回	経営計画の策定について	経営計画とは何かを調べる。	2
		企業が公表している経営計画の特徴を調べる。	2
第4回	決算書の読み方・見方	企業の決算書（B/S, P/L, C/S）を入手して業績を調べる。	2
		企業が公表している決算書からその業界の特徴を調べる。	2
第5回	財務諸表分析・その 1：貸借対照表（B/S）による安全性分析と成長性分析	安全性分析と成長性分析の特徴を調べる。	2
		企業の B/S から自己資本比率などの経営指標を算定する。	2
第6回	財務諸表分析・その 2：損益計算書（P/L）による収益性分析と効率性分析	収益性分析と効率性分析の特徴を調べる。	2
		企業の P/L・B/S からＲＯＡなどの経営指標を算定する。	2
第7回	財務諸表分析・その 3：キャッシュフロー計算書（C/S）による資金繰り分析	キャッシュフロー計算書の特徴を調べる。	2
		企業の C/S から営業・投資・財務の資金の流れを分析する。	2
第8回	財務諸表分析・その 4：原価予測の方法	P/L における営業費用の勘定科目について調べる。	2
		企業の総原価を分解して発生する原価を予測する。	2
第9回	財務諸表分析・その 5：損益分岐点分析（ＣＶＰ分析）	損益分岐点分析の特徴を調べる。	2
		決算書から損益分岐点を算定して利益図表を作成する。	2
第10回	製造業における単位製品の製造原価の算定：個別原価計算	製造業において受注生産をしている業界を調べる。	2
		受注生産形態に適した個別原価計算技法を理解する。	2
第11回	製造業における単位製品の製造原価の算定：総合原価計算	製造業において大量見込生産方式をしている業界を調べる。	2
		大量見込生産形態に適した総合原価計算技法を理解する。	2
第12回	原価管理のための原価計算：標準原価計算	標準原価計算の特徴を調べる。	2
		標準原価計算制度のもとでの標準原価差異分析を理解する。	2
第13回	短期利益計画策定のための原価情報：直接原価計算	直接原価計算の特徴を調べる。	2
		変動費と固定費を区別した直接原価計算の技法を理解する。	2
第14回	まとめと試験	これまで学習した内容に関する要点を整理する。	2
		筆記試験および口頭試問にて取り上げた論点を確認する。	2

6	ビジュアルデザイン特論		選択 2単位 後期
	Design Strategy		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
篠原　良太

授業の達成目標

将来、ビジュアルデザインの実務にかかわろうとするものにとって必要となる知識・発想・技術・思想を得ることを目標とする。

授業の概要

ビジュルアデザインの中でも特にグラフィックデザインとイラストレーションをテーマに、デザイン制作者と発注者の視点で、プロセスや考え方を解説する。各回の講義ならびに、毎回のレポートやデザイン課題の制作をもとにしたディスカッションを通して、実践的に理論や手法を学ぶ。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

特になし 適宜必要に応じて参考資料等を配付

参考書等

成績評価方法・基準

授業中のディスカッション、毎回の課題レポート、最終プレゼンテーションの結果を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポート課題・デザイン課題は、次回授業時にフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

6	ビジュアルデザイン特論	0	選択 2単位 後期
	Design Strategy		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション・ビジュアルデザイン概論	予習 ： ビジュアルデザインについて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第2回	VD と社会 1：アートディレクションとグラフィックデザイン／イラストレーション	予習 ： アートディレクションの事例について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第3回	VD と社会 2：クライアントワークとアート表現	予習 ： クライアントワークの流れについて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第4回	VD と社会 3：メディアによる表現の違いと効果	予習 ： ビジュアルデザインが用いられるメディアについて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第5回	VD とその構成 1：直感的な訴求力のあるデザイン	予習 ： 人目を引くデザインについて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第6回	VD とその構成 2：意味を掘り下げるデザイン	予習 ： ビジュアルデザインに使われる記号について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第7回	VD とその技術 1：構図とグリッド	予習 ： ビジュアルデザインにおけるルールについて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第8回	VD とその技術 2：タイポグラフィ	予習 ： 読みにくい、もしくは読みやすいと感じられる文字構成について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第9回	VD とその技術 3：パターン表現と配色・重色	予習 ： 図形を繰り返す効果ついて調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第10回	VD の展開 1： 紙媒体と動的表現	予習 ： 紙媒体において動きのある表現について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第11回	VD の展開 2：コラージュ・切り絵とデジタル表現	予習 ： コラージュ・切り絵がもたらす効果について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第12回	VD の展開 3：モチーフが伝える意味	予習 ： モチーフの種類・表現手法について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第13回	VD の展開 4：かわいさ・ウィット・パロディ・タブーの効果	予習 ： かわいさ・ウィット・パロディ・タブーの事例について調べる。	2
		復習： 配付資料などを確認して復習し、レポートやデザイン課題としてまとめる。	2
第14回	まとめ：レポート発表とディスカッション	予習： 講義内での質疑や提出課題を整理して最終プレゼンテーション資料としてまとめる	2
		復習： 発表後の指摘点をレポート・デザイン課題に反映する	2

7	視覚情報論		選択 2単位 前期
	Theory of Visual communication and Information Design		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	9 12
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全クラス
古川　哲哉

授業の達成目標

視覚を中心とした情報伝達を対象とした分野である視覚伝達デザインと、さまざまな事柄の関係性を対象としているとも言える情報デザイン、それぞれの基礎知識を習得する。また、習得した基礎知識を元に簡単な課題制作に取り組むことで、創造的な発想と基礎的なビジュアライズ技術を習得することを目標とする。

授業の概要

視覚伝達デザインならびに情報デザインの分野における幾つかのトピックの解説とディスカッション、簡単な課題制作を行う。課題制作は受講者の専門の分野を対象とした図や表の作成を主とし、効果的な伝達方法や分かりやすく提示する手法を実践的に学ぶ。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜資料等を配布

参考書等

授業内で適宜紹介

成績評価方法・基準

授業中のディスカッションおよび毎回の課題、課題発表で総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

課題については次回授業時にフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

7	視覚情報論	0	選択 2単位 前期
	Theory of Visual communication and Information Design		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	視覚伝達デザイン・情報デザイン	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第2回	身体性	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第3回	身体の拡張	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第4回	記号論	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第5回	ダイアグラム	学習内容に関わるキーワードについて調べ、具体的な事例を挙げられるようにする。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第6回	アイソタイプ・ピクトグラム	学習内容に関わるキーワードについて調べ、具体的な事例を挙げられるようにする。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第7回	サイン	学習内容に関わるキーワードについて調べ、具体的な事例を挙げられるようにする。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第8回	近代グラフィックデザインの基本文法1	""The Art of Color and Design"" Maitland E. Graves 1951 について調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第9回	近代グラフィックデザインの基本文法2	""The Art of Color and Design"" Maitland E. Graves 1951 について調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第10回	グリッドシステム	学習内容に関わるキーワードについて調べ、具体的な事例を挙げられるようにする。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第11回	タイポグラフィ	学習内容に関わるキーワードとスイススタイルについて調べ、具体的な事例を挙げられるようにする。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第12回	パターンランゲージ	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第13回	アートとアフォーダンス	学習内容に関わるキーワードについて調べる。	2
		配付資料などを確認して復習し、課題に取り組む。	2
第14回	課題発表と総括	これまでの学習内容や提出課題をまとめる。	2
		これまでの配付資料などをまとめ、発表課題の問題点を修正する。	2

8	デザイン経営論		選択 2単位 前期
	Design Strategy		

授業形態		該当科目	
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目
			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

全組
下總　良則

授業の達成目標

ニーズとデザインを、イノベーションとブランディングに資することができる人材の育成を目指す。また、前述の内容に留まらず、経営学の各分野に対するデザインの貢献方法を研究し、将来的には営利非営利を問わず、企業・組織の経営メンバーを担うチーフデザインオフィサーの輩出を最終目標に定め、この素養の習得・研究を目指す。なお、デザインと経営学の領域を学際的に扱う観点から、受講者にはデザインのみならず、マーケティング、ポストモダンマーケティング、ヒューマンリソース、アカウンティング、ファイナンス、アントレプレナーシップなど、経営学の領域に関する一連の素養を身につけていることを条件として求める。

授業の概要

ニーズとデザインを、経営学のヒト・モノ・カネの各分野に結びつける方法を研究する。実社会の中で取り組まれている事例を題材として、経営の戦略と戦術を把握しながら、デザインがそこにどう貢献できるのかを考える。この時に作成するレポートをもとに、その有効性についての考察を行う。本授業では、受講学生が予め考えてきた意見による発言をもとに、クラス全体で学びを進める。このため、授業内で指定されたレポート等の予習と、クラス全体の場での発言は必須とする。また本授業は、zoom や miro など
のオンラインツールを使った授業も想定している。このため、安定して授業に接続できるインターネット回線下での受講を必須とする
。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業等でのデザイン経営分野の実務経験における実績と経験を講義に活かし、より実践的な授業を構成して実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

・授業内にて適宜、提示する。

参考書等

成績評価方法・基準

クラス全体の場における発言：約 15%、各予習レポート：約 15%、最終レポート：約 70%を目安に成績を評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

最終レポートは第 14 回目授業内でクラス全体にフィードバックを行う。また、授業内で指定された予習についても、予習が該当する授業内にてクラス全体へフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

8	デザイン経営論	0	選択 2単位 前期
	Design Strategy		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	【講義】デザイン経営宣言の理解	予習：デザイン経営宣言・高度デザイン人材について考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第2回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：イノベーション・ブランディングについて考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第3回	【講義】イノベーション創出へのアプローチ	予習：ビジョンデザインについて考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第4回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：デザイン思考、システムデザインについて考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第5回	【講義】ブランディング分野へのアプローチ	予習：ブランディングの北極星とふたつの山の意義を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第6回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：外向き、内向きのブランディングについて考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第7回	【講義】ヒューマンリソースへのアプローチ	予習：ミッションを達成する組織形成を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第8回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：人事分野からの示唆と、人事分野への貢献を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第9回	【講義】アカウンティング・ファイナンスからのアプローチ	予習：アカウンティング・ファイナンスの概念を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第10回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：財務分野からの示唆と、財務分野への貢献を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第11回	【講義】アントレプレナーシップからのアプローチ	予習：企業家精神がデザイン経営に果たす意義を考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第12回	【演習】作成レポートを使用したディスカッション	予習：組織のミッション・ビジョン・バリューとの繋がりを考える。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第13回	【講義】授業内容を振り返る最終レポートの作成	予習：これまでの学びから気づいたことについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2
第14回	【演習】最終レポートの振り返り	予習：これまで学んだ内容について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認する。	2

9 地域産業デザイン論

Theory of Regional Industrial Design

選択 2単位 後期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	4 8 9 11 17
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

3号館3F佐藤飛鳥研究室
佐藤　飛鳥

授業の達成目標

地域の活性化を図るには、伝統産業やその地域で発展している産業、さらにはこれから地域産業として発展させることを目的として、新産業を育成することが必要である。「地域の文化や特性を活かした産業デザイン」を行うためには、地域の持つ風土・歴史を理解し、その産業分野全体の状況、地域特性や競争優位、将来性などを検討し、戦略的に関係者を集めネットワーク化を図って産業を育成していく必要がある。本講義では地域と宮城に焦点を当て、地域産業の創生、育成のために行われている事例紹介を通して理論やプロセスを学習し、地域産業をデザインし、発展させる方法を身に付ける。

授業の概要

文部科学省知的クラスター創成事業金沢地域の事例を基に、新産業を創出していく際のプロセスや理論、留意点などをレクチャーする。主に 3 つの観点から構成しており、①地域産業デザインの総論、②人的資源管理・人材育成の観点と、③マーケティングの観点から講義を行う。受講者自身も講義中にワークを行い、自らのテーマのケースについて検討する。その後、受講者の修士論文テーマに即し、地域の伝統産業や産業育成、新産業振興に関し、地域の課題を発見し、解決していくための総合的な地域産業のデザイン力をつける。

実務経験を活かした教育について

文部科学省知的クラスター創成事業において石川県の予防型社会創造産業形成に携わった経験を授業に活かし、適応力養成に還元する。

メディア授業の実施形態

教科書等

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編 （佐藤飛鳥）『価値創発(EVP) 時代の人的資源管理　Industry4.0 の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房 （財）石川県産業創出支援機構 （佐藤飛鳥）『予防医療先進地域石川の実現をめざして』及び『石川予防型社会創造産業クラ医療社会システムの展開』など（図書館に蔵書あり）

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑 20%、課題レポートと口頭発表 50%、最終レポート 30%で総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

全ての評価は次回の講義の冒頭でフィードバックする。

備考

デザイン工学専攻

9 地域産業デザイン論

Theory of Regional Industrial Design

0　選択 2単位 後期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス：地域産業デザインとは	宮城県、または出身地の地域産業を調べる	2
		宮城県、または出身地の地域産業振興策を考える	2
第2回	事例紹介：文部科学省知的クラスター創成事業金沢地域	文部科学省知的クラスター創成事業について、ホームページを熟読する	2
		指定参考文献を読む	2
第3回	産業デザインのための地域特性把握	宮城県の既存産業を調べ、基礎統計を確認する	2
		自らの修論に即してテーマ産業を選定する	2
第4回	競争優位の確認 1：地域資源と人材	注目した産業の地域資源と、キーパーソンとなる人材を洗い出す	2
		注目した産業のニーズや市場規模をまとめる	2
第5回	競争優位の確認 2：地域産業の歴史と現状	地域産業の歴史的経緯、特徴を列挙する	2
		現状での競争優位、文化的価値、経済的価値など多面的に価値を洗い出す	2
第6回	競争優位の確認 3：産業連関、新たなネットワークと新産業への発展性	注目した産業で産官学連携を行うと想定し、必要な組織や人材を列挙する	2
		産業連関表を理解し、類似産業とのコラボレーションなどにより、人的ネットワークや技術が結びついたときの発展可能性を模索する	2
第7回	地域産業化：関連企業や人材のネットワーク化とルール策定	産官学連携を通して産業振興に必要なルールを考える	2
		関連企業やキーパーソンのネットワークマップを作成する	2
第8回	人的資源管理 1：ステークホルダーのモチベーションアップ	産業の魅力を携わっている人自身が理解し、他者に説明できるように言語化する	2
		経済的価値以外の要素（伝統的価値、多世代共創、やりがい、希少性、高度な技術など）でモチベーションをアップする方策を提案する	2
第9回	人的資源管理 2：ワークライフマネジメントとダイバーシティマネジメント	必ずしも定年がなく、仕事と暮らしが不可分な産業においてのワークライフバランス、マネジメントを考える	2
		高齢者、女性、障害者など、就労の場では従前補助的な立場に置かれがちであった人々の活躍の場や方法を考える	2
第10回	人的資源管理 3：技能継承や人的ネットワークの引き継ぎによる次世代継承者の育成	産業のノウハウ、スキル、人的ネットワークの効果的な継承方法を考える	2
		若年層が興味を持つ産業のプロモーション方法と、時代に即した技能継承方法の工夫をまとめる	2
第11回	マーケティング戦略 1：PEST 分析	PEST 分析の手法を予習する	2
		講義時に行った自らのテーマの PEST 分析を完成する	2
第12回	マーケティング戦略 2：4P 分析	4P 分析の手法を予習する	2
		講義時に行った自らのテーマの 4P 分析を完成する	2
第13回	マーケティング戦略 3：コアコンピタンスの確認と効果的なプロモーション	産業のコアコンピタンス（ 他社による代替・複製・模倣が困難な特徴 ） をまとめる	2
		コンセプトの効果的なプロモーションをブラッシュアップする	2
第14回	最終レポート　プレゼンテーション	講義内での質疑やワークを整理してレポートを執筆し、プレゼンテーション資料を Keynote またはPowerPoint で準備する	2
		発表後の指摘点をレポート訂正に反映する	2

10	福祉情報デザイン論		選択 2単位 前期
	Theory of Well-being and Information Design		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
両角　清隆

授業の達成目標

福祉も情報も、現代社会で人間が、社会を形成していくうえで必須な要素である。情報社会においては、一人一人の生活者が必要な情報に適切にアクセスし利用できるようにすることが、重要になりつつある。情報デザインによって福祉を増進する方法を探り、デザイン対象として適切に取り組みができるようにする。

授業の概要

人びとの幸福を増進するための、個人、家族、グループ、コミュニティなどの情報の内容や生み出し方・共有の方法について調査・検討する。発信や共有される情報内容について、1）共有される情報の内容　2）情報の理解の方法　3）支援のための情報技術等の視点から検討し、支援方法を構築できるように考察を行う。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業のデザイン部門において業務に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書：上平崇仁 著：コ・デザイン　デザインすることをみんなの手に、NTT 出版、2021参考書籍：原田悦子 編著　「使いやすさ」の認知科学 共立出版 2003、江渡浩一郎 著　パターン、Wiki、XP 技術評論社 2009

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑および課題レポート 50%、まとめの試験 50%として総合的に評価する。レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

10	福祉情報デザイン論	0	選択 2単位 前期
	Theory of Well-being and Information Design		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	福祉と情報デザインの課題	予習：福祉（Well-being）の分野と情報デザインの関係について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第2回	個人や家族の中の情報デザイン	予習：個人や家族の情報共有の内容と方法について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第3回	コミュニティや社会の中の情報デザイン	予習：コミュニティや社会の情報共有の内容と方法について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第4回	情報と認知特性	予習：人間の情報処理の特性について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第5回	高齢者の認知特性	予習：高齢者の認知特性と課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第6回	障がい者の認知特性	予習：障がい者の認知特性と課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第7回	支援技術としての情報デザイン	予習：情報にアクセスしやすくしている工夫について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第8回	認知的人工物を介した対話	予習：テレビ電話などコミュニケーションの道具のメリットとデメリットについて調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第9回	高齢社会でのユニバーサルデザイン	予習：高齢者のコミュニケーションの道具の課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第10回	情報技術を生かす：最新の情報技術	予習：最新の情報技術の到達点と課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第11回	情報技術の社会的課題	予習：社会の中で情報技術を生かすときの課題について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第12回	コミュニティと情報技術	予習：コミュニティのコミュニケーションの支援方法について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第13回	今後の福祉情報デザインのありかた	予習：社会をよりよくするための情報デザインの方法について調べる。	2
		復習：配付資料などを確認して復習する。	2
第14回	まとめと試験	予習：情報社会を支え、人びとの幸福を増進する情報デザインの方法を具体的に提案する。	2
		復習：資料等を確認して復習する。	2

11 造家造景特論

	選択 2単位 前期

Advanced Seminar of Architecture and Landscape Design

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
大沼　正寛

授業の達成目標

「造家」は、明治期に誕生した「建築」の原語である。「造景」は、造園から生業景まで、環境のなかで行う建築的行為を指す。造家と造景は分かちがたい関係にある。変容する地域社会のなかで、そのかたち・しくみをどう捉え、再生、創造していくか、その持論を形成することをめざす。あわせて、受講者それぞれが拠って立つ建築・工芸・プロダクト・事業デザインその他において、ここでの探求を活かす道筋を探りたい。

授業の概要

古今東西の造家・造景に関わるかたち・しくみを探究するテーマ・レクチャから、デザイン実習によってそれを修得・鍛錬するスキル・ワークまで、複眼性と相補性をもってすすめる。担当教員の専門は建築学であるが、受講者が専門とするデザインの対象や手法は限定しない。

実務経験を活かした教育について

建築士として設計経験、様々な地域における実践プロジェクトの経験を活かし、希望者に対してはより実務的な教育内容を加えることがある。

メディア授業の実施形態

教科書等

指定しない。適宜紹介する。

参考書等

成績評価方法・基準

最終的にとりまとめたポスターと、それを用いた口頭発表をもとに、理解度合・考察内容を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

口頭発表時にフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

11 造家造景特論

0	選択 2単位 前期

Advanced Seminar of Architecture and Landscape Design

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	造家造景に関わる諸領域の広がり（ガイダンス）	専攻分野に関する参考文献を通読しておく。	2
		最終発表のテーマについて構想に着手しノートに記す。	2
第2回	造家造景のあゆみ（総論レクチャ）	仙台・東北・国内外の地理について地図を下見しておく。	2
		講義をふまえ次回討論のレポートをまとめる。	2
第3回	造家造景の思想と表現（ディスカッション）	討論レポートを伝える視覚的表現の準備をしておく。	2
		各自の計画提案の制作スケジュールを決定する。	2
第4回	立地と構えと素材（テーマレクチャ「表現」その１）	着眼した生活環境の立地・素材を調べておく。	2
		講義をふまえ造家／造景の特徴をまとめておく。	2
第5回	空間特質を伝える（テーマレクチャ「表現」その２）	対象物の造形意匠の特徴と疑問点を抽出しておく。	2
		講義をふまえ関連する文献を通読しておく。	2
第6回	生活主体と風土性（テーマレクチャ「研究」その１）	参考文献の通読から要点や疑問点を抽出しておく。	2
		参考文献と着眼対象の関係性について考察しておく。	2
第7回	地域・場所の意味（テーマレクチャ「研究」その２）	着眼対象が立地する地域の特徴について調べておく。	2
		着眼対象のあるべき姿について基本構想をまとめる。	2
第8回	造家造景の着眼点とケーススタディ（ディスカッション）	着眼対象の可能性や課題を明確化しておく。	2
		最終発表ポスターセッションのアウトラインを描画しておく。	2
第9回	文献調査と位置づけ（テーマレクチャ「調査」その１）	キーワードをもとに参考論文を検索・出力しておく。	2
		着眼対象に対する実地調査の手法を整理する。	2
第10回	実地調査と記録手法（テーマレクチャ「調査」その２）	実地調査に必要な準備を行う。	2
		実地調査で得られたデータ類を整理し、記述や製図等の作業にあたる。	2
第11回	文脈とコンセプト（テーマレクチャ「提案」その１）	関連分野の優れた提案表現の手法をまとめておく。	2
		着眼対象をふまえた文脈とコンセプトを文章化する。	2
第12回	生きられた空間の断面（テーマレクチャ「提案」その２）	関連分野の優れた空間表現の手法をまとめておく。	2
		着眼対象をふまえた空間デザイン手法を明確化する。	2
第13回	造家／造景の鑑賞と批評（ディスカッション）	作品鑑賞と批評の事例を調べておく。	2
		着眼対象をふまえ、批評を図式的に現し、他人に説明してみる。	2
第14回	学習内容のとりまとめ・ポスター制作（ワーク＆ディスカッション）	最終発表ポスターセッションの制作を進めておく。	2
		指摘された事項を修正するなど表現の改善に努める。	2

12	地域環境創生論		選択 2単位 後期
	Sustainable Regional Revitalization		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
大場　真

授業の達成目標

自然生態系を含む周辺環境と調和した地域づくりをデザインするため、文理分野にとらわれない幅広い知識のカタログを理解することと、それらの地域適用を提案できる能力の育成を目的とする。講義で与えられた知識だけでなく自主的調査能力の涵養を目的として、前半は毎回レポートを課す。講義後半では、第 11 回から 13 回まで地域環境創生に関する事例調査を課し、第 14 回においてプレゼンを行うこととする。これらにより、専門的な知見や解析を、専門性のない第三者にわかりやすく伝達する能力を育成することも目的とする。

授業の概要

本講義ではなるべく専門性・厳密性を損なわないように配慮しつつ、幅広い分野の環境に関する観測、技術、制度について俯瞰的に解説する。前半では環境を理解するための、環境概念、物質循環、自然 ・ 人工生態系、企業における環境問題と環境活動、環境に関わる経済学、動物愛護や生物多様性保全などの倫理学、地域における環境をデザインするための様々な行政計画類を取り上げる。後半は具体的な地域における地域資源・環境創生に焦点を当てて事例紹介を行い、合わせて受講者のプレゼンテーションを行い、議論を深める。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、環境に関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

都度紹介する

参考書等

成績評価方法・基準

第 1 回から 10 回までレポートを課し、翌回の講義中にレポート内容を発表する（ 評価の 60%)。第 11 回から 13 回までは地域環境創生に関する事例調査のレポートを課し、第 14 回においてそのプレゼンを行う（ 評価の 40%)。次回授業時に全体に対しフィードバッ

課題や試験等に対するフィードバック方法

講義開始時に都度内容を紹介してもらい、学生、教員からのコメントを受ける

備考

デザイン工学専攻

12	地域環境創生論	0	選択 2単位 後期
	Sustainable Regional Revitalization		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	「講義の概要と目標」	提示された参考資料の確認	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第2回	「地域環境の捉え方」環境という概念の考え方と、それを捉える方法	幅のある概念としての環境の捉え方をレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第3回	「環境と物質循環」炭素に着目し、物質循環について考える	カーボンフットプリントに関するレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第4回	「環境と生物・生態系」生物種や生態系が織りなす環境について考える	地域固有の生物種・生態系と外来種の侵入に関するレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第5回	「環境と社会」企業における環境への影響、環境からの影響について	企業の CSR 活動について調査してレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第6回	「環境と経済」環境問題に関わる経済について考える	生態系サービスの価値に関するレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第7回	「環境と倫理」環境問題が引き起こす様々な倫理的課題について考える	各種環境倫理主義について調査しレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第8回	「環境の計画 1」国レベルでの環境行政について考える	地域資源に関したレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第9回	「環境の計画 2」広域自治体、基礎自治体における環境行政について考える	広域自治体が環境行政に果たす役割と課題を整理しレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第10回	「環境と災害」様々な災害の発生と環境の問題について考える	環境に配慮した防災減災の取り組みについてレポート	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第11回	「地域環境創生 1」環境に配慮したまちづくりについて考える	地域環境創生に関する事例調査のテーマ設定	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第12回	「地域環境創生 2」ゲストスピーカーを交えて環境創生について考える	地域環境創生に関する事例調査の調査	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第13回	「地域環境創生 3」ゲストスピーカーを交えて環境創生について考える	地域環境創生に関する事例調査のレポート作成	2
		復習課題についてレポートを作成する	2
第14回	「地域環境創生 4」総合レポートを相互にプレゼンし、講義を総括する	地域環境創生に関する事例調査のプレゼンテーション	2
		復習課題についてレポートを作成する	2

13	地域居住と防災減災		選択 2単位 後期
	Regional Housing and Disaster Management		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	3 10 11 12 14 15
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
畠山　雄豪

授業の達成目標

地域性と多様性の両面からみた居住計画をめぐる現状を把握するとともに、防災減災や安全安心生活をめざした施策・実践事例の成果と課題を考察・評価できる。

授業の概要

東北地方における地域と宮城の居住様式を念頭に置きながら、災害発生、応急対応のしくみなどを、グループディスカッションなどを通して考えていく。また、防災減災の観点から、都心部、郊外部、農山漁村など多様な地域の実態をとらえ今後の地域居住のあり方を再考していく。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。

メディア授業の実施形態

教科書等

教科書：特に指定しない。教員作成の資料を配布する。

参考書等

成績評価方法・基準

課題レポート 50%、まとめの試験 50%で評価する。課題レポートをもとに授業内にてディスカッションを行う。

課題や試験等に対するフィードバック方法

毎回の授業前に、前回の課題についてディスカッション・プレゼンを行いながらフィードバックする。

備考

デザイン工学専攻

13	地域居住と防災減災	0	選択 2単位 後期
	Regional Housing and Disaster Management		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	東北のくらしについて予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容や遺構の講義計画を念頭におき、参考図書を読む。	2
第2回	東北農山漁村地域の居住形態	東北の民家・集落形態について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第3回	東北の災害史概略	東北の災害史について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第4回	東日本大震災について	東日本大震災について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第5回	災害救助法と応急仮設住宅	災害救助法について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第6回	災害公営住宅と防災集団移転促進事業	復興事業について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第7回	国土保全と基盤整備	基盤整備事業について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第8回	農山漁村における生業・産業の構造	地域産業構造について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第9回	都市施設における避難と仮設住宅	都市施設の避難計画について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第10回	防災訓練と実効性	防災訓練について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第11回	防災減災の都市計画	防災減災と都市計画について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第12回	防災減災施設について	防災減災施設について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第13回	防災減災と情報伝達	防災減災と情報伝達について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2
第14回	防災減災をめぐる地域居住の課題とこれから	地域居住について予備考察をしておく。	2
		講義で触れた内容を再読し、不明点を明らかにする。	2

14 環境文化論

Regional Environment and Culture

	選択 2単位 前期

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
岸本　誠司

授業の達成目標

1. 地理学・生活学・民俗学の視点から、日本列島、とりわけ東北地方の環境と暮らしの多様性を理解する。
2. 地域環境の価値の重層性について理解する。
3. 地域環境の保全や文化継承に関する実践とその課題について理解する。

授業の概要

東北地方は太平洋側、内陸部、日本海側の地理的な地域性が大きく多様な自然を有している。本講義では、東北地方の各地で営まれてきた暮らしや生業、景観などを取り上げ、環境民俗学の視点から人と自然との関わりついて具体的に学んでいく。親和的な自然とのつき合い方が失われつつある現況を踏まえ、人と自然とのあたらしい関係について思索を深める。

実務経験を活かした教育について

NPO、地域づくり、ジオパークなどで得た実務経験を活かし、地域環境の理解と課題解決に向けた実践的な教育内容を提供する。

メディア授業の実施形態

教科書等

適宜資料等を配布します。

参考書等

野本寛一『神と自然の景観論』（2006）
山泰幸ほか『環境民俗学―新しいフィールド学へ 』（2008）

成績評価方法・基準

成績の評価は、講義でのディスカッションの内容（50%）、および、適宜要求されるテーマに基づくレポート（50%）によって行う。特に筆記試験は行わない。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートについては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

14 環境文化論

Regional Environment and Culture

0	選択 2単位 前期

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	地域環境を考察する視点（ガイダンス）	地理学・生活学・民俗学の視点や方法について調べておく。 配布資料・参考文献を読み、関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第2回	東北地方の環境と景観	東北地方の風土、地勢の特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み、関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第3回	平地の環境と生活文化	東北地方の平野部の風土、地勢の特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第4回	山の環境と生活文化	東北地方の山間地域の風土、地勢の特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第5回	海の環境と生活文化	東北地方の沿岸地域の風土、地勢の特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第6回	水辺の環境と生活文化	東北地方の内水面地域の風土、地勢の特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第7回	中間まとめ：学習内容の確認とディスカッション	自身の考えをまとめる。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第8回	人と動物の交渉史	日本列島に生息する動物の分布、特徴について調べておく。	2
		配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
第9回	暮らしのなかの樹木・植物の利用	日本列島に見られる植物の分布、特徴について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第10回	暮らしのなかの技術と造形 1	民具・民藝研究の歴史と概要について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第11回	暮らしのなかの技術と造形 2	民具・民藝研究の歴史と概要について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第12回	地域環境の保全と活用 1 － 海洋ごみ問題	SDG sの概要、プラスチック社会の課題について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第13回	地域環境の保全と活用 2 － ジオパーク	ユネスコのプログラムの理念、ジオパーク活動の概要について調べておく。 配布資料・参考文献を読み。関連するキーワードの情報や文献を収集する。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2
第14回	総括：これまでの学習内容の確認とディスカッション	自身の考えをまとめる。	2
		講義で取り上げた事例が自身の研究テーマの参考になるよう思索を広げる。	2

15	看護支援デザイン論		選択 2単位 後期
	Theory of Nursing Care Support		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	3 4 10 11 12 16 17
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
伊藤　美由紀

授業の達成目標

生活者の QOL（生活の質、人生の質）の維持や向上を目指したデザインするために、現在の社会的背景と課題を理解し、子どもや高齢者、障害や疾病のある方とともに家族全体や生活する場（地域）を支援する方法、それらが自律する方法を理解する。

授業の概要

超少子高齢化社会において、医療や療養の場は病院や施設から一般家庭や地域社会へと広がっている。家庭での生活療養環境や法制度が整備されていく一方で、さまざまな課題も存在している。安全かつ快適なくらしを共創するためには、生活者と医療福祉専門家との連携はもちろん、様々な職種や地域住民との連携も重要とされる。この講義では、それらの知識と考え方をわかりやすく話す。

実務経験を活かした教育について

総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活具のデザインにつなげられるよう教授する。

メディア授業の実施形態

教科書等

配布資料による

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑および課題レポート、コミュニケーションや支援技術の習得を総合的に評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポートや課題については、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

15	看護支援デザイン論	0	選択 2単位 後期
	Theory of Nursing Care Support		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	高齢化・少子化の進む社会とは	新聞などから少子高齢化問題に関心を持ち情報を集める。	2
		復習として少子高齢社会問題の具体的事例などを用いて整理する。	2
第2回	地域で療養する人と社会資源	介護保険制度、地域包括ケアシステムについて予習する。	2
		復習として具体的な社会資源利用、地域包括ケアシステムを整理する。	2
第3回	基本的な生活支援技術	介護や療養問題について予習する。	2
		復習として介護療養問題について具体例をあげて説明できるように整理する。	2
第4回	家族に対する支援	家族が抱える健康問題について予習する。	2
		復習として家族の抱える問題を整理する。	2
第5回	生活者や療養者の理解と支援①　高齢者	加齢と老化、高齢者について予習する。	2
		地域社会での高齢者支援の取り組みについて復習する。	2
第6回	生活者や療養者の理解と支援②　障害がある人	障害がある人について予習する。	2
		地域社会での障害がある人への支援について復習する。	2
第7回	生活者や療養者の理解と支援③　慢性疾患を持つ人	生活習慣病について予習する。	2
		日常生活と生活習慣病、予防について復習する。	2
第8回	生活者や療養者の理解と支援④　がんを持つ人	がんとがんに罹患した人への支援について予習する。	2
		がんに罹患した人やその家族、その支援について復習する。	2
第9回	生活者や療養者の理解と支援⑤　終末期と死	病気や老いることと死について予習する。	2
		生きることと死ぬことについて自分なりの考え方を整理する。	2
第10回	生活者や療養者の理解と支援⑥　子ども	子どもの生活行動を観察してのぞむ。	2
		復習として子どもの行動と発達、子育て支援を関連付けて整理する。	2
第11回	看護や介護など生活支援をする人の理解	医療福祉の現場について予習する。	2
		復習として医療福祉の現場の課題と解決策を考え整理する。	2
第12回	災害時の被災予防支援	災害時の心身の被害について予習する。	2
		災害予防法や災害時対応について復習する。	2
第13回	地域が抱える課題	少子高齢化社会における地域の抱える課題について予習する	2
		地域の抱える課題について具体例をあげて説明し、解決に向けた考え方をまとまる	2
第14回	まとめと試験	生活者の QOL について予習する。	2
		生活者の QOL 向上のための支援について復習する。	2

16	生活環境性能論		選択 2単位 前期
	Theory of Environmental Performance for Dwelling		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	3 7 11 12 13
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
高木　理恵

授業の達成目標

(1)持続可能な社会の重要性について、その背景を理解した上で説明できる。
(2)実際に「建築物環境性能評価システム CASBEE」を用いて生活環境を評価する中で、総合的な環境性能を向上させるための持続可能な築デザイン手法の考え方を理解する。
(3)持続可能性をキーワードに環境工学を中心とした実践的な考え方・手法・技術について幅広く学び、前項で評価した生活環境の改善する。

授業の概要

経済活動の拡大に伴う環境負荷の増大は、地球温暖化などの地球規模の環境問題を引き起こし、持続可能な開発目標SDGsの17の目標の1つである「住み続けられるまちづくり」を実現するためには、私たちの生活が周辺の環境に与えている負荷について見直す必要があ一方で、生活環境の品質と私たちの健康には関係性があり、健康を損なわないための環境品質を確保することも重要な課題である。授業建築物の環境性能を環境品質と環境負荷の両面から評価する「建築物環境性能評価システム CASBEE」について解説し、生活の環境性能を向上させるための考え方・手法・技術について取り上げる。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

建築の環境性能評価、建築環境工学に関連する資料を配布

参考書等

成績評価方法・基準

建築の環境性能評価の実践に関するプレゼンおよびレポートで評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

建築の環境性能評価の実践課題については、授業中に進捗状況を確認し、その結果を踏まえて全体に対しフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

16	生活環境性能論	0	選択 2単位 前期
	Theory of Environmental Performance for Dwelling		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	持続可能な建築デザインの背景と目的	持続可能な社会が求められる背景について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、持続可能な建築デザインの目的についておさらいする。	2
第2回	建築の環境性能評価の考え方	環境性能評価の対象を検討する。	2
		授業で配付された資料を再読し、建築の環境性能評価の考え方についておさらいする。	2
第3回	建築に求められる様々な性能と等級	住宅性能表示制度について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、建築に求められる性能についておさらいする。	2
第4回	生活環境と健康との関わり	自分の生活環境の健康度について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、生活環境と健康との関わりについておさらいする。	2
第5回	長寿命・省資源のための建築デザイン	長期優良住宅について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、長寿命・省資源のための建築デザインについておさらいする。	2
第6回	省エネルギーと再生可能エネルギーの利用	自分の生活環境における省エネ対策について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、省エネルギーと再生可能エネルギーについておさらいする。	2
第7回	建築の環境性能評価の実践（現状評価）	前半の授業で学んだことをおさらいする。	2
		評価対象の現状の環境性能評価を完成させる。	2
第8回	開口部の環境工学的なデザイン	自分の生活環境の開口部のデザインについて調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、パッシブデザインの考え方についておさらいする。	2
第9回	パッシブデザインの考え方	自分の生活環境のパッシブデザインについて調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、パッシブデザインの考え方についておさらいする。	2
第10回	省エネルギーに配慮した建築デザインの事例紹介	省エネに配慮した建築の事例について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、省エネに配慮した建築デザインの特徴についておさらいする。	2
第11回	既存ストックの改修と活用	住宅ストックの課題について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、建築のリノベーションについておさらいする。	2
第12回	持続可能な建築の事例紹介	持続可能な建築の事例について調べる。	2
		授業で配付された資料を再読し、評価対象の上げるための改善策を検討し始める。	2
第13回	建築の環境性能評価の実践（改善提案）	後半の授業で学んだことをおさらいする。	2
		評価対象の環境性能を上げるための改善策を検討し、改善提案後の環境性能評価を完成させる。	2
第14回	建築の環境性能評価の実践（プレゼン）とまとめ	全ての授業で学んだことをおさらいする。	2
		取り組んだ環境性能評価についてレポートにまとめる。	2

17 福祉空間特論

	選択 2単位 前期

Advanced Study of Welfare Space

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
谷本　裕香子

授業の達成目標

・福祉空間について多様な視点から考え、意見を述べることができる
・福祉空間を体験し、人と環境の関係性を考察できる
・福祉空間における課題を発見し、改善案を提示できる

授業の概要

現代社会では、人口減少・少子高齢者がますます進んでいくと考えられる。本科目で扱う「福祉空間」は子どもや高齢者、障害者など日常生活において配慮が必要となる人だけでなく、子どもを持つ母親、心身ともに健康でない人が利用する空間も対象とする。本科目では福祉空間を五感・人・行動・デザイン・都市・自然のキーワードから考える。キーワードに関わる知識や実例をもとに福祉空間を多方面から見つめ、人を中心とした環境づくりのために必要な基礎知識と技術を実践的に学び、実務に生かす。

実務経験を活かした教育について

担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。

メディア授業の実施形態

教科書等

田中直人、保志場国夫：五感を刺激する環境デザイン， 彰国社 ，2002.6
ユニエル・コーヘン、ジェラルド・D・ワイズマン：老人性痴呆症のための環境デザイン， 彰国社 ，1995.12

参考書等

成績評価方法・基準

授業内での質疑応答・レポート（40%）および、プレゼンテーション（60%）により総合的に判断し、評価する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

レポート・プレゼンテーションについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。

備考

デザイン工学専攻

17 福祉空間特論

0	選択 2単位 前期

Advanced Study of Welfare Space

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	福祉空間には何が含まれるか調べる	2
		福祉空間について復習する	2
第2回	五感と福祉空間：五感を刺激する環境デザイン	五感を刺激する環境について調べてくる	2
		身の回りのデザインを探す	2
第3回	五感と福祉空間：音環境とカームダウン	カームダウンスペースについて調べてくる	2
		音環境が体験できる場所を訪問する	2
第4回	人と福祉空間：高齢者と空間	高齢者の心身の特徴について調べてくる	2
		高齢者の利用する空間について調査する	2
第5回	人と福祉空間：障害者・子どもと空間	障害者・子どもの心身の特徴について調べてくる	2
		障害者・子どもの利用する空間について調査する	2
第6回	行動と福祉空間：人間の行動と福祉空間	人の行動と空間について調べてくる	2
		福祉空間と行動の関係性について考える	2
第7回	行動と福祉空間：現地調査	現地調査の準備をする	2
		調査結果をまとめる	2
第8回	デザインと福祉空間：日本の福祉空間	日本の福祉空間のデザインの特徴を調べる	2
		日本の福祉空間のデザインを復習する	2
第9回	デザインと福祉空間：海外の福祉空間	海外の福祉空間のデザインの特徴を調べる	2
		海外の福祉空間のデザインを復習する	2
第10回	都市と福祉空間：福祉空間の配置計画	福祉空間の立地特性について調べる	2
		福祉空間の配置計画について復習する	2
第11回	都市と福祉空間：福祉空間を地域にひらく	福祉空間が地域に開く必要性について調べる	2
		地域に開いた福祉空間を視察する	2
第12回	自然と福祉空間：外部空間と福祉空間	福祉空間における外部空間の重要性について調べる	2
		外部空間を利用した福祉空間を分析する	2
第13回	自然と福祉空間：素材と福祉空間	素材の特徴を調べる	2
		福祉空間に使われる素材を復習する	2
第14回	グループワークと発表	プレゼンテーションにおけるアイデアの伝え方を予習する	2
		プレゼンテーション手法を復習する	2

18	生態環境とサステナビリティ		選択 2単位 後期
	Ecological System and Sustainable Environment		

授業形態		該当科目	
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目
			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業

SDGs の取り組み

クラス・担当教員

全
向井　康夫

授業の達成目標

人間生活をとりまく自然環境および生物界の成り立ちを概括しながら、地域環境の特性・課題を的確に評価することができる。

授業の概要

デザイン工学およびライフデザインの観点から涵養しておくべき環境学、生態学等の基礎を学ぶとともに、具体的な生活環境や地域福祉のあり方に照らしてその持続性を考察していく。

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

講義中に都度、提示する。

参考書等

成績評価方法・基準

授業中の質疑および課題レポート、まとめの提出物に加え、持続可能な街を構築することを想定したプレゼンテーションと質疑応答の内容を併せて、総合的に評価する

課題や試験等に対するフィードバック方法

次回授業時に全体に対しフィードバックを、ディスカッション形式で行う。

備考

デザイン工学専攻

18	生態環境とサステナビリティ	0	選択 2単位 後期
	Ecological System and Sustainable Environment		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習･下段復習）	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	身の回りの生態系について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第2回	地球環境と持続可能な開発目標	地球環境の現状と、持続可能な開発目標（SDGs）について調べておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第3回	生物学基礎	食物連鎖と、エネルギーおよび物資の流れについて予習しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第4回	物質循環論	カーボンマネジメント、生食連鎖と腐食連鎖について調べておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第5回	気候風土と植生・生態	身の回りの植生と、文化的景観について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第6回	森林・草原・農地	森林・草原・農地の環境的特徴について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第7回	農業土木の歩み	農地開拓と食料生産の歴史、農地活用管理について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第8回	農村の生物と環境	予習：田んぼの環境的特徴と、そこにすむ生物について調べておく。	2
		復習：授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第9回	都市の生物と環境	都市の環境的特徴と、そこにすむ生物について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第10回	都市緑化と自然公園	都市のグリーンインフラについて調べ、実物を観察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第11回	こどもと環境教育	予習：環境系の学習教材について調べておく。	2
		復習：授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第12回	社会と環境倫理	なぜ環境保全や生態系保全が必要か、について考察しておく。	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第13回	生活環境と地域福祉	持続的な社会を考える上で、解決すべき社会的課題について調べておく	2
		授業で提示された内容を振り返り、不明部分を明確にする。	2
第14回	生活環境とサステナビリティ総論	支え合うくらしと生活環境の実現ついて、考察しておく。	2
		授業で議論した内容を振り返り、社会の課題について深く考察する。	2

19	大学院の英語 I		選択 2単位 前期
	English Communication I （Graduate Course）		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	4
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全
クック　サイモン

授業の達成目標

Students will learn the skills which will enable them to use English with confidence. Full participation in this class will reward the student with confidence in English to help them succeed in a world in which being able to use English is highly regarded. Students will be expected to work with other students in the class, creating a collaborative environment for all class attendees.

授業の概要

The course will focus on speaking and listening but will include activities which use all four English skills. English vocabulary and tips to improve oral communication will be presented in an engaging way. Each week, students will be required to actively participate in a variety of both group-based activities and self-assessment tasks. Final presentations will be based on student interpretations of SDGs.

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

Dictogloss in Action (Gold) 著者：Adrian Leis, Simon Cooke　ISBN：978-4-9913907-0-8　￥3,850 SielpA Books

参考書等

成績評価方法・基準

Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester test and a presentation. Weekly word tests-10%　Presentation 2-10%　Speaking test-30%　Transcription exercises-20%　Final presentation-30%

課題や試験等に対するフィードバック方法

Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.

備考

デザイン工学専攻

19	大学院の英語 I	0	選択 2単位 前期
	English Communication I （Graduate Course）		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	Course introduction & orientation. Stage 1-1 of textbook.	Purchase of textbook and preparation for first class	2
		The importance of speaking English and creating a collaborative environment. Student self-introduction in the form of their first presentation.	2
第2回	Stage 1-2 of textbook. Note taking while listening #1. Conversation tips #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 1.	2
第3回	Stage 1-3 of textbook. Looking at useful language and vocabulary used in a presentation. Note taking while listening #2. Introduction to shadowing. Conversation tips #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 2.	2
第4回	Stage 1-4 of textbook. Looking at useful language and vocabulary in a presentation 2. Note taking wh	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test. Transcription exercise 3.	2
第5回	Stage 1-5 of textbook. Preparing for your first presentation - choosing a topic. Orally summarizing	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in front of group. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 4.	2
第6回	Stage 2-1 of textbook. Making a good impression 1. Looking at posture and eye-contact. Orally summar	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Vocabulary test and language exercises. Students watch and learn from other's presentations. Transcription exercise 5.	2
第7回	Stage 2-2 of textbook. Looking again at posture and eye contact. Idiomatic language #1. Giving and r	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Feedback from/to peers. Transcription exercise 6.	2
第8回	Stage 2-3 of textbook. Making a good impression 2a. Using gestures 1. Idiomatic language #2. Convers	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Giving presentation with gestures. Transcription exercise 7.	2
第9回	Stage 2-4 of textbook. Making a good impression 2b. Idiomatic language #3. Conversation tips #8.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for 2nd presentation. Transcription exercise 8.	2
第10回	Stage 2-5 of textbook. Making your point 1a. Interrogatives & stating opinions #1. Conversation tip	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Students watch & learn from other's presentations. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 9.	2
第11回	Stage 3-1 of textbook. Making your point 1b. Signposting (transition phrases and sequencers). Interrogatives & stating opinions #1. Conversation tips #10.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Feedback from/to peers. Final presentation topics. Transcription exercise 10.	2
第12回	Stage 3-2 of textbook. Making your point 2a and 2b. Interrogatives & stating opinions #1. Conversati	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and preparation for the next lesson in the textbook.	2
		Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. More examples of good presentations.	2
第13回	Final presentation and Speaking test.	Final presentation and Speaking test.	2
		Revision of topics and themes covered in the semester.	2
第14回	Check of understanding of materials covered during the semester.	Keeping up with English studies.	4
			0

20	大学院の英語 II		選択 2単位 後期
	English Communication II （Graduate Course）		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	4
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
			実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全
クック　サイモン

授業の達成目標

As with the first semester, this semester aims to inspire students to work hard at improving their English skills, enabling them to use English with confidence. Full participation in this class will reward the student with confidence in English to help them succeed in a world in which being able to use English is highly regarded. Students will be expected to work with other students in the class, creating a collaborative environment for all class attendees.

授業の概要

As in the first semester, the course will focus on speaking and listening but will include activities which use all four English skills. English vocabulary and tips to improve oral communication will be presented in an engaging way. Each week, students will be required to actively participate in a variety of both group-based activities and self assessment tasks. As with the first semester, final presentations will be based on student interpretations of SDGs.

実務経験を活かした教育について

メディア授業の実施形態

教科書等

Dictogloss in Action (Gold) 著者：Adrian Leis, Simon Cooke　ISBN：978-4-9913907-0-8　￥3,850 SielpA Books

参考書等

成績評価方法・基準

Students will be evaluated through both continual assessment, an end of semester test and a presentation. Weekly word tests-10%　Presentation 2-10%　Speaking test-30%　Transcription exercises-20%　Final presentation-30%

課題や試験等に対するフィードバック方法

Comments regarding both excellent examples and common errors in English produced in students' work will be made at the start of each class.

備考

デザイン工学専攻

20	大学院の英語 II	0	選択 2単位 後期
	English Communication II （Graduate Course）		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第1回	Introduction to the course. Look at the introduction and Stage 4-1. Preparation for vocabulary test	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		The importance of speaking English and creating a collaborative environment. Student self-introduction in the form of their first presentation.	2
第2回	Stage 4-2 of textbook. Looking at presentation vocabulary. Indirect language #1. Classroom language	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 1.	2
第3回	Stage 4-3 of textbook. Looking at using your voice and intonation when speaking. Indirect language #	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 2.	2
第4回	Stage 4-4 of textbook. Looking at sentence stress in a presentation. Indirect language #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 3.	2
第5回	Stage 4-5 of textbook. Looking at using graphs in a presentation #1. Tone of voice #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 4.	2
第6回	Stage 5-1 of textbook. Looking at using graphs in a presentation #2. Tone of voice #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion & collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 5.	2
第7回	Stage 5-2 of textbook. Using and reporting figures in a presentation #1 Tone of voice #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises Transcription exercise 6.	2
第8回	Stage 5-3 of textbook. Using and reporting figures in a presentation #2 Fluency & pronunciation #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for final presentation. Transcription exercise 7.	2
第9回	Stage 5-4 of textbook. Concluding your message. Fluency & pronunciation #2.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 8.	2
第10回	Stage 5-5 of textbook. Taking questions #1. Fluency & pronunciation #3.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Preparation for final presentation. Transcription exercise 9.	2
第11回	Stage 6-1 of textbook. Taking questions #2. Discussion Strategies #1.	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises. Transcription exercise 10.	2
第12回	Stage 6-2 of textbook. Overview of all sections of the presentation. Discussion Strategies #2. Prepa	Preparation for vocabulary test. Completion of transcription print and checking of video presentation in preparation for class.	2
		Group discussion and collaboration. Weekly presentation in groups. Vocabulary test and language exercises.	2
第13回	Final presentation and Speaking test.	Final presentation and Speaking test.	2
		Revision of topics and themes covered in the semester.	2
第14回	Check of understanding of materials covered during the semester.	Keeping up with English studies.	4
			0